

「建築計画委員会」委員公募

建築計画委員会では、下記の小委員会委員を公募します。参加を希望される会員はふるってご応募ください。

■ 住宅計画小委員会

主 査：鈴木雅之（千葉大学）

募集人員：若干名

設置期間：2012年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：本小委員会は、「住居・住宅地」に関わる現代の課題研究と意見交換を進めその成果を出版や公開研究会を通して公表することを目的とする。重点的に取り組むテーマとして、①住宅計画の調査研究のまとめと出版企画、②減災型住宅・住宅地づくりの研究、③住宅関連学会、及び設計事務所研究会等との意見交換、④住宅系研究論文報告会の実施、を予定している。

■ 住宅地計画小委員会

主 査：田上健一（九州大学）

募集人員：2名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：多様な既成住宅地を対象に現地調査を織り交ぜながら、空間・社会・文化・制度等の多面的な視点で、住宅地の有する課題整理と既成の枠組みにとらわれない新たな再生・更新手法の検討を行う。さらに、ハウジングから地域・都市づくりまでを連続的・包括的・相互的に捉え、持続的代謝が可能な住宅地計画のあり方と手法について提言する。

■ 高齢者・障がい者等居住小委員会

主 査：石井敏（東北工業大学）

募集人員：3名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承認日～2016年3月

活動目的：本小委員会は超高齢社会において、高齢者・障がい者等が地域で安心して住み続けられることを可能にする居住環境（住宅・施設・地域）と生活支援のあり方を明らかにするための研究活動を行っている。特に、被災地域における高齢者・障がい者等の居住の課題についても焦点をあてながら研究活動を行う。

■ 比較居住文化小委員会

主 査：内海佐和子（昭和女子大学）

募集人員：4名

設置期間：2012年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：人・物・情報が世界規模で行きかう現在、それらの要因に影響を受け、居住の質も劇的に変化している。こういった状況のもと、フィールドワークによる居住文化の研究および、それをもとにした多様な展開を推進することを目的とする。具体的には、居住文化研究に関する研究会および見学会の開催、フィールドワークを主体として研究を行ってきた研究者による、研究の技法および方法論を紹介する書籍の刊行、居住文化研究に関する情報発信などに取り組む。なお、研究対象とするフィールドは国内外を問わない。

■ コミュニティ居住小委員会

主 査：藤岡泰寛（横浜国立大学）

募集人員：3名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：少子高齢社会、人口減少社会、災後社会における家族構造、社会構造、都市構造の変化のなかで、「居住の安定」を達成することが大きな課題となっている。本委員会では、地域・コミュニティの現場で育まれ醸成されてきた繋がり・文脈や生活体験を読み解き、「居住の安定」とは何か、研究・実務の枠組みはどうあるべきかについてコミュニティ視点や人間視点から幅広く整理・検討・提案する。

■ ライフスタイル小委員会

主 査：佐々木誠（日本工業大学）

募集人員：4名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承認日～2016年3月

活動目的：住まいに関する建築計画は、そこに住む人々の生活のあり方を見つめることを重視しており、生活者を知ることがひとつの出発点となる。近年は特に、人口減少や少子高齢化の進展、安全安心への意識の高まりなど、同時代における諸相の変化に伴い、ライフスタイルや住文化は大きく変化している。それらの変化に対応した住まいや居住環境のあり方に着目し、今後の住まいに関する建築計画の方向性を検討する。特に、家族や個人、その集団の生活のあり方や文化的価値に注目し、「現代の諸問題に対応する住ま

いの周縁領域」をテーマとして研究活動を行う。

■ 医療施設小委員会

主 査：寛淳夫（工学院大学）

募集人員：3名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承認日～2016年3月

活動目的：24時間365日適切な医療サービスを提供する上で、医療施設には、日常・非日常を問わず患者側・医療提供側双方に「安全・安心」が求められる。例えば最近では、医療事故対策や各種災害対策など、様々な方策が議論・具現化されている。しかしこれらは個々の問題への対応に止まる場合が多く、建築空間として総合化した際の問題の有無や、あり方について検討を行う場面は少ない。そこで2012/13年度に引き続き「医療施設における安全・安心」を主題として、特に建築・設備計画的見地から幅広く議論を展開し、上記の問題点の抽出とあり方を提案する。

■ 教育施設小委員会

主 査：倉斗綾子（千葉工業大学）

募集人数：3名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：学校建築を始めとする教育施設に関する調査研究及び情報共有を目的とする。2014年度以降は具体的には以下の活動を予定している。

- 1) 教育施設に関する情報収集・研究を継続的に行い、テーマを選定してシンポジウム・研究会等を実施する。
- 2) 戦後学校建築計画史のオーラルヒストリーをまとめ、出版する。(WGによる活動)
- 3) 研究者・設計者の交流・研究討議の場、若手研究者育成の場を設ける。
- 4) 教育施設計画の最新動向について情報収集、共有し、広く発信する。

■ 地域施設計画小委員会

主 査：天野 克也（東京都市大学）

募集人員：3名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承認日～2016年3月

活動目的：地域の生活や活動を支える各種建物、都市から農山村までの多様な地域施

設の計画と設計の横断的な研究を進展させるとともに、全国的な地域施設の研究者と設計者の交流を図り、社会への情報発信を行うことを目的とする。

■ ワークプレイス小委員会

主 査：地主廣明（東京造形大学）

募集人員：3名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：人々の働き方や働く場所が多様化する社会状況に対応して、単にオフィスビル内にとどまらない様々な“働く場”を「ワークプレイス」という概念を用いて横断的・包括的に研究を展開し、これからの「ワークプレイス(建築)」のあり方を提案し、あわせて研究活動と研究交流を行うことを目的とする。

■ 福祉施設小委員会

主 査：鈴木 義弘（大分大学）

募集人員：3名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：超少子高齢社会のなかにおいて、子どもや障がい者・高齢者施設など地域資源としての福祉施設計画の再編成は最重要課題である。近年、地域密着や小規模多機能など、従来の制度的枠組みにとらわれない福祉施設が現れており、さらには安心と安全の保障された環境の重要性への関心も高まるなど、今後の地域福祉のあり方には新しい知見が求められている。これに対応するため、領域横断的さらには学際的な連携を深めながら、今日的な理論性と実践性を備えた計画技術を提示するための活動を行う。

■ 文化施設小委員会

主 査：浦部智義（日本大学）

募集人員：2名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：都市生活、地域生活において重要な役割を果たしている文化施設は、特に80年代以降の急速な施設整備とも相俟って、単なる余暇のための施設ではなく、地域や都市における人が集まる場としての役割も担っている。これらの施設の計画・設計論だけではなく、公立文化施設の運営及び地域的な観点

からの将来的なストックとして如何に活用を図るかというのは、社会的な意義のある課題とともに緊急性も高い課題である。本委員会においては、それらに関する様々な調査研究を展開することにより、必要な知見を得るとともに、適宜公開につとめる。また、文化施設小委員会の傘下に劇場・ホールWGとミュージアムWGの専門性の高い2つのWGを設置し、調査研究、シンポジウム、出版等の事業を委員会と連携しながら活動する予定である。

■ 安全計画小委員会

主 査：水落秀木（清水建設）

募集人員：4名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：超高齢社会の到来や五輪招致による集客施設の増加等の社会背景より、本小委員会でこれまで検討してきた超高層事務所を主対象とした火災や地震時の安全計画を超高層以外の建築や不特定多数の用途にも広げる。最近の建築事例、災害事例、海外基準等を調査し、建物の用途・空間特性に応じた避難施設等の計画方法を検討する。

■ 建築人間工学小委員会

主 査：田中直人（島根大学）

募集人員：3名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：2014年4月～2016年3月

活動目的：当小委員会は、建築空間・設備機器・家具の安全性や快適性の実現に必要な人間工学関連の知見を蓄積・更新し、これらを供給者ならびに生活者に提言することを目的とする。特に、近年の高齢化、情報化、グローバル化などの社会的動向を鑑みて、高齢者、障害者、子供などの多様なユーザーの生理・心理・行動特性をふまえた生活環境の質的向上について多面的に検討する。具体的には、年4回の委員会と、年2回の公開研究会の開催を予定している。委員会では建築人間工学に関連する委員の研究状況や成果を共有するための情報交換や特定のテーマに関する検討を行う。公開研究会では建築分野外の方々との討論も積極的に実施し、幅広い視点から社会に提言することを目標とする。また、この分野の若手研究者を支援する活

動も展開する。

■ 空間研究小委員会

主 査：佐野友紀（早稲田大学）

募集人員：3名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承認日～2016年3月

活動目的：今期は、空間研究の再構築として歴史的計画研究の継承から、新しい空間研究への展開を目指す。当委員会での過去の研究会成果および出版成果等の歴史的計画研究をふまえた上で、「縮小社会」にむけた、量から質への新しいニーズに合わせた研究・設計手法の検討、いままで建築計画で取り上げてこれなかった各種空間やこれに関連する事象を取り上げ、その根底にある理論、意味について議論する。具体的には、従来の空間研究手法に加えて、新しい調査・分析手法の導入として、情報技術（3D技術、VR）、データマイニング（統計分析）、計測手法などについても検討する。また、従来の建築計画研究の対象としづらかった施設用途や新しい居住形態の研究についても検討する。

■ 環境行動研究小委員会

主 査：西田 徹（武庫川女子大学）

募集人数：3名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：環境行動研究的視点から、実際に体験される環境・場所の質を分析・評価するための理論構築を行い、人と環境との豊かな関係を紡ぎ出す環境・場所の創出・維持を目指す。

■ 設計方法小委員会

主 査：本江正茂（東北大学）

募集人員：3名

設置期間：2014年4月～2018年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的・建築・都市・環境の設計方法に関わる理論や実践を広く調査・収集・整理・体系化することにより、それらの成果を広く会員に敷衍させ、設計・デザインの質的向上に貢献する活動を継続的に行う。

- ・設計・デザイン研究に関連する他学会と連携して、我が国のデザイン研究分野の発展に寄与する。
- ・人工物のプロダクトレベルのデザインや、そこに反映される、あるいはデザインがもたらす様々な背景情報・制約条件・社会システム等のメタレベルの「関係性のデザイン」に関する検討・提案を行う。
- ・さまざまな社会システムの再構築が求められる状況下にあつて、社会的価値を創出するためのデザインのスコープ・プロセス・マネジメント等の方向性をさぐる。

■ 情報設計小委員会

主 査：村上晶子（明星大学）

募集人員：2名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：本小委員会は、設計の実務に関わる委員を中心に、設計をその方法と扱う情報の2つの側面から研究考察して、実際の設計活動にフィードバックすることをミッションとしている研究委員会です。なお当小委員会は建築計画委員会に属していますが、委員会研究活動の性格上、設計者・建築計画研究者に限らず、構造設計・環境設計の実践者・研究者も歓迎しています。

■ ユーザー・オリエンティド・デザイン小委員会

主 査：西出和彦（東京大学）

募集人員：3名

設置期間：2012年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：本小委員会は、「高齢者」「障害者」等も含め、多様化する建築利用者（ユーザー）のニーズを汲み取り、それを建築デザインへ反映させる手法の構築に向けた研究活動の実施を目的とする。具体的には

- ①多様化するユーザー自身の特性把握
- ②ユーザーの行動のディテールおよび行動の意味の把握
- ③ニーズを反映した建築の計画・デザインを生み出す手法の検討
- ④ニーズの汲み上げとデザインに反映させる仕組み・制度の検討等の課題設定のもと研究活動を実施する。

■ 各部構法小委員会

主 査：小見康夫（東京都市大学）

募集人員：2名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的；各部構法は、ハードウェアである建築部位の、要求性能・機能に対するソリューションであるが、新築工事に比べて制約条件が厳しい改修工事では、一般解よりも特殊解の色合いがより一層濃くなるため、それらの全体像がわかりにくく、実務や教育における事例の有効利用が困難になっている。これらの問題意識に基づき、本小委員会では、改修各部構法に関する以下の活動を予定している。

①見学会やミニ講演会等を通じた情報収集・事例研究を行う

②事例の設計・施工情報を整理するとともに、それらが広く共有・活用されるためのプラットフォームとして、インターネット上に「参加型ナレッジベース」を構築するための研究及び試作等を行う。

■ 木造建築構法小委員会

主 査：山畑信博（東北芸術工科大学）

募集人員：3名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：日本における木造建築は、過去から現在につながる歴史性はいままでもなく、現在では持続可能な社会を支えるエコロジカルな建築として再認識されており、今後の社会基盤を構成する重要な要素となっている。本委員会ではこのような木造建築を多角的に捉えて、災害復旧住宅を含めた現状認識を行い、今後の方向性を見出してゆく。そのテーマは、1) 木造建築における新技術や構法開発の情報収集、2) 在来および伝統木造建築の構法史・性能の再評価と技術研究、3) 木構造の研究者との連携・共同研究あるいは研究の情報交換、4) アジアを中心とする海外の木造建築構法に関する情報収集、5) 持続可能な社会における木造建築のあり方に関する研究である。

■ オープンビルディング小委員会

主 査：村上心(椋山女学園大学)

募集人員：4名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：現在、建築分野における世界的な課題として、膨大な既存建物のストックを、環境負荷の少ない手法で長期に渡って効果的に改修・転用する技術体系を確立することが求められている。我が国では、例えば国土交通省の重要課題として位置づけられている。本小委員会では、この課題に対して、国際的に確立されたオープンビルディングの計画手法を応用する研究を展開する。具体的には、下記の研究課題に取り組む。・長期利用が可能な集合住宅の計画／設計／施工技術（新設、既存）・工業化住宅などマスハウジング期建物、及び、団地のストック活用手法（法制面、技術面）・住宅におけるカスタマイゼーション手法の体系化（新築、改修）

■ 公共施設マネジメント小委員会

主 査：西野辰哉（金沢大学）

募集人員：4名

設置期間：2012年4月～2016年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：21世紀日本は人口縮小期に入り、地方自治体は合併等により大きく再編された。こうした状況下、拡大基調で整備されてきた公共施設は、圧縮、濃密な内容に再構築、再編される必要性が生まれている。また、都市と農村部など地域格差も顕在化し、公共施設の配置にも新しい視点が求められている。本委員会はこの状況を後ろ向きにとらえるのではなく、高水準、高質かつ持続的な公共施設整備のチャンスととらえ、機能／空間／配置という建築計画の基本をふまえつつ、都市経営の大きな視点を見据え、まちづくりから市民参加まで包括した枠組でそのあり方について総合的に検討し、ビジョン提示などにより社会の期待に答える。

■ Evidence-Based Design 小委員会

主 査：岸本 達也（慶應義塾大学）

公募人員：3名

設置期間：2014年3月～2018年3月

委員任期：承諾日～2016年3月

活動目的：現代社会では科学的な根拠に基づく設計が求められており、その傾向はますます強くなっている。Evidence-Based Design（根拠に基づく設計）小委

員会は、建築空間、都市空間における場面々々の課題に対応する根拠に基づく設計技術、根拠に基づく設計の研究について事例を収集し、体系化を目指すとともにその是非を問う。特定のビルディングタイプの課題に限定せず、教育・学習空間、商業空間、医療空間、ワークプレイス、居住空間、バナキチャー建築、建築の内外観、安全性、持続可能性など、建築計画に係る様々な課題とその設計手法を、Evidence-Based Design の視点から位置づける。

■ 建築設計計画評価小委員会

主 査：加茂 紀和子（みかんぐみ）

募集人員：3～5名

設置期間：2014年4月～2016年3月

委員任期：承認日～2016年3月

活動目的：本委員会は、現代建築作品を通して有効な設計方法論を求め、新しい計画学の枠組みを構築することを目的とする。具体的には現代建築作品・プロジェクトを建築計画学から評価する可能性を探るための様々なクライテリア（評価軸・評価基準）と評価方法を検討し試行する。今期は3期6年目のまとめとして、これまで建築家の自邸について見学会を実施した際の建築家の言葉を分析し、計画設計との関連を探りながら、計画学の視点からその評価をから行った内容、短評および対談の原稿を精査し、出版に向けた作業を行う。

● 募集要領 下記に（1）（2）を作成のうえ、E-mailで提出してください。

（1）希望の小委員会

（2）応募者について

- ① 会員番号、氏名、年齢、所属、職位、連絡先住所、同電話・FAX、E-mailアドレス、専門分野
- ② 現在本会で所属して委員会の有無、応募中の委員会の有無（有の場合は委員会名を記すること）
- ③ 希望小委員会で果たせる役割（1000文字以内）
- ④ 希望小委員会に関連する業績（1000文字以内）

提出先：日本建築学会 建築計画委員会公募係

E-mail：morita@aij.or.jp

締 切：1月26日（日）

採 否：委員会で決定のうえ本人に通知します。